

鹿兒島縣に於ける大豆害虫の種類(予報)

糸賀繁人・山下幸彦

鹿兒島縣立農業試験場

Itoga, S. & Yamashita, Y. A list of species of the injurious insects to soybean plant in Kagoshima prefecture. (A Preliminary report.)

鹿兒島縣に於ける大豆害虫の種類について目下調査を続行中であるが、現在判明した6目22科47種を報告しておく。なお本文中の和名及び学名の一部は未永一氏の“九州に於ける大豆害虫分布相”(未発表)によるものである。

I. 鞘翅目 COLEOPTERA

1. ヒメコガネ *Anomara rufocuprea* Motsch.
2. ドウガネブイブイ *Anomara cuprea* Hope.
3. マメコガネ *Popillia japonica* Newman.
4. ヒメサクラコガネ *Anomara geniculata* Motsch.

以上の内ヒメコガネ、ドウガネブイブイは局部的には相当の被害を見るが4種共普遍的に散見する程度である。

5. フタスジヒメハムシ *Paraluperodes suturalis nigrobilineatus* Motsch. 特に夏大豆の発芽当初の被害が甚だしく、幼虫は根瘤を害する。

6. ホタルハムシ(キムネハムシ) *Monolepta dichroa* Har. 前種同様に発生加害する。

7. ヒメキバナサルハムシ *Pagria signata* Motsch. 葉肉のみ食するので葉は白褐色に焼けた様になる。小豆、紅豆等に多いが大豆上でもよく見受けられる。

8. ムギノミハムシ *Chaetocnema cylindrica* Baly. 麦間の青刈大豆に被害が認められるが、その数は少ない。

9. ウリハムシモドキ *Luperodes discrepans* Baly. 局部的に発生する傾向があり、摂食量も相等しく被害の大なるものであるが、加害時期が割合に短く7月頃には全く認めなくなる。

10. コフキゾームシ *Eugnathus distinctus* Roelof.

11. トビイロゾームシ *Sceptucus insularis* Roelof.

以上2種は山間の畝でしばしば見られるが大した害虫ではない。

12. マメハンメウ *Epicauta gorhami* Marseul. 集団発生して次第に移動する性質があり、局部的には被害がある。

II. 鱗翅目 LEPIDOPTERA

13. モンキチヨウ *Colias hyale poliographuss* Motsch. 幼虫が主に夏大豆の葉を喰害するもので場所によつては被害も少くない。

14. ハスモンヨトウ *Prodenia litura* Fabri. 孵化当時の幼虫が群棲して加害すると葉は網状となり褐変し、一見してその被害が判る。特に秋大豆に多く局部的に異常発生をなす場合があり、その様な圃場では生葉を殆ど喰いつくし相当な被害を出す。

15. カブラヤガ *Euxoa segetis* Schiff.

16. ナシケンモン *Acronycta rumicis* L.

17. ヨトームシ *Barathra brassicae* L. 以上3種の幼虫も大豆を加害する。

18. マユアカヒトリ *Amsacta lactinea* Cramer. 発生量は少ないが本種の幼虫は暴食性で特に夏大豆の生育期に被害が目立つ。

19. マメドクガ *Cifuna locuples* Walker. 大豆圃に散見される程度である。

20. ミスジノメイガ *Lamprosema indicata* Fab. 6~7月頃より10月頃まで葉を不規則に1~3葉位綴り合せ、その中で葉肉のみを喰害する。特に秋大豆に多く本縣下で大豆葉を害する害虫では発生加害の最も大なるものである。

21. ウコンノメイガ *Sylepta ruralis* Scopoli. 前種同様1葉縦に葉を捲くが殆ど発生を見ない位である。

22. アワノメイガ *Pyrausta nubilalis* Hub. 夏大豆にはあまり見ないが秋大豆にはしばしば加害している。幼虫が髓に侵入して葉を萎凋させる場合もあるが、子実も加害する、何れの場合も喰入痕より虫糞を排出している。

23. シロイチモジマダラメイガ *Etiella zinckenella* Treit. 虫喰豆の大部分が本種の被害粒と云つてよい程被害が大きく、20%位の被害粒率を出すこともある。夏秋大豆共大差なく加害し、品種間に幾分の耐虫性が観察されるが判然としない。

24. アズキサヤムシ *Thiodia azukivora* Matumura. 子実を害するが発生量は少ない。

Ⅲ. 双翅目 DIPTERA

25. ダイズサヤタマバエ *Asphondylia buai* Fab. 本県では殊に秋大豆に甚だしく山間部の圃場に被害が多い。

26. ダイズクキモグリバエ *Melangromyza* sp. 秋大豆の被害調査の結果96%の寄生率を示し、加害の大なるもので、特に幼植物に侵入して髓を喰害するために植物は衰弱し、極端な場合は立枯となる。

27. ダイズクロモグリバエ *Ophiomyia* sp. 大きな被害のあるものではないが、幼虫が葉内を潜行して大きなプロツチを作り之は後に褐変する。

Ⅳ. 膜翅目 HYMENOPTERA

28. ダイズハバチ *Takeuchiella pentagona* Malaise. 薩摩郡大村の夏大豆に発生、例年発生して相等の被害がある様であるが、局地的に発生するらしい。

Ⅴ. 半翅目 HEMIPTERA

29. アオクサカメムシ *Nezara antennata* Scott. 主に莢を吸収加害するので莢は一部変色して子実は畸型となる、被害の大きいものである。本種は発生量も多く7月以降には幼、成虫共に混棲して加害する。

30. アオカメムシ *Nezara viridula* L.

31. ツヤアオカメムシ *Glaucias subpunctatus* Walker.

32. ムラサキカメムシ *Carpocoris purpureipennis* De Geer. 以上3種はアオクサカメムシと混合発生するが量は少ない。

33. イチモジカメムシ *Piezodorus rubrofasciatus* Fab. アオクサカメムシより稍小型で発生加害も大きく、前種同様重要な害虫である。

34. マルカメムシ *Coptosoma punctissimum* Mont. 大豆粒位のカメムシで特に山間地に多く、秋大豆では注目すべき害虫である。

35. ヒメマルカメムシ *Coptosoma biguttule* Motsch.

36. マルシラホジカメムシ *Eusarcocoris guttiger* Thunb. 以上2種は少数ではあるがマルカメムシと同様に加害する。

37. ホソヘリカメムシ *Riptortus clavatus* Thunb. 大豆害虫の中で最も実害のあるもので若莢を加害されると黄変して落下するものが多い。

38. ホソハリカメムシ *Cletustrigonus* Thunb.

39. クモヘリカメムシ *Leptocoris varicornis* Fab. 以上2種も加害を見受ける。

40. メダカナガカメムシ *Chauliopus fallax* Scott.

41. セスジマキバサシガメ *Nebis ferus* L.

42. ミドリメクラカメムシ *Lygus pratensis* L.

43. コミドリヨコバイ *Chlorita flavescens* Fab.

44. ダイズアブラ *Aphis glycines* Matumura.

45. アズキノアブラムシ *Aphis medicaginis* Koch.

46. イセリヤカイガラムシ *Icerya purchasi* Maskell. 以上発生被害程度に大小はあるが大豆を加害する。

Ⅵ. 直翅目 ORTHOPTERA

47. オンパツタ *Atractomorpha bedeli* Boliv. 葉を喰害するのをしばしば見受ける。